

ビジネスの哲学について

テーマを深めるヒント

キーワード：哲学、対話、チーム、組織、職場、人間関係 など

分類番号の例：104（哲学評論）、336.3（経営組織）、336.3（人事管理）

361.4（社会心理学）、809.6（話し合い）

★おすすめ本リスト★

『職場のトリセツ』 黒川 伊保子 （時事通信社）2021年

人と人との「すれ違い」には、脳や意識が関係していることがある。人工知能の開発に携わっていた著者が、脳の違いを知って職場づくりに役立てるアイデアを提案する。

『職場の感情論』 相原 孝夫 （日本経済新聞出版）2021年

リモートワークにより、社員それぞれが違う場所で仕事を行った結果、マネジメントは複雑化し、これまでに起きていた職場の問題が顕在化している。職場全体を支配しがちなネガティブな感情や、個人の状況から起こる感情を分析し、理想的な職場のあり方を考える。

『異なる人と「対話」する本気のダイバーシティ経営』

野村 浩子 （日本経済新聞出版）2021年

行間を読み、空気を読むことで文化・価値観を共有できていた「ハイコンテクスト」社会の日本では、「対話」が不足している。多様性を経営に取り入れるために、企業がどのように変化していくべきか、管理職を中心とした取り組みについて実例を基にしながら探る。

『「哲学」思考法で突然頭がよくなる！』小川 仁志 （実業之日本社）2017年

身の回りのテクノロジーや日常にあるものを、偉大な哲学者たちの思考法で見直している。

「YouTubeとフランシス・ベーコン」「IoTとミシェル・フーコー」など、意外な組み合わせで考えてみると、新しいものの見方を発見できる。

『対話の技法』 納富 信留 （笠間書院）2021年

対話とは何か、という根源的な問いからこの本は始まる。対話は目的を達するための手段ではなく、成果が出なくても対話をする事自体に意味がある。対話を行うための方法やそれに臨む際の心構えなどから、哲学を実践するための対話について考えを深めていく。